

職能科通信 15号

2012年8月発行 <http://www.kanagawa-rehab.or.jp>

〒243-0121
神奈川県厚木市七沢 516
神奈川県リハビリテーション病院
職能科
TEL&FAX 046-249-2575

職能科の就労支援

支援の特徴は、病院組織の中で職能科が位置付けられていることにより、受傷・発症後間もない亜急性期の入院患者さんや維持期の外来患者さんの利用者が多く、支援の開始はリハビリテーション専門医の処方から始まります。就労形態に応じて支援コースを設け、予後の経過を見ながら、支援計画を立て、個別・集団訓練などのプログラムを提供します(図1)。

同時に、傷病手当金や年金などの経済保障、障害者手帳取得の検討、休職期間等の復職先との確認・調整など、病院ならではの支援も行ないます。

その他、リハビリテーションスタッフ相互乗り入れにより外来患者6名で構成する通院プログラム、職業準備学習や地域就労支援機関との連携など、必要に応じた支援を行います。

支援体制は、就労支援担当5名のうち1名が院内訓練専従で、4名が院内訓練を担いながら就労支援を行っております。今年度も、患者様のニーズに応じた支援プログラムを提供してまいります。

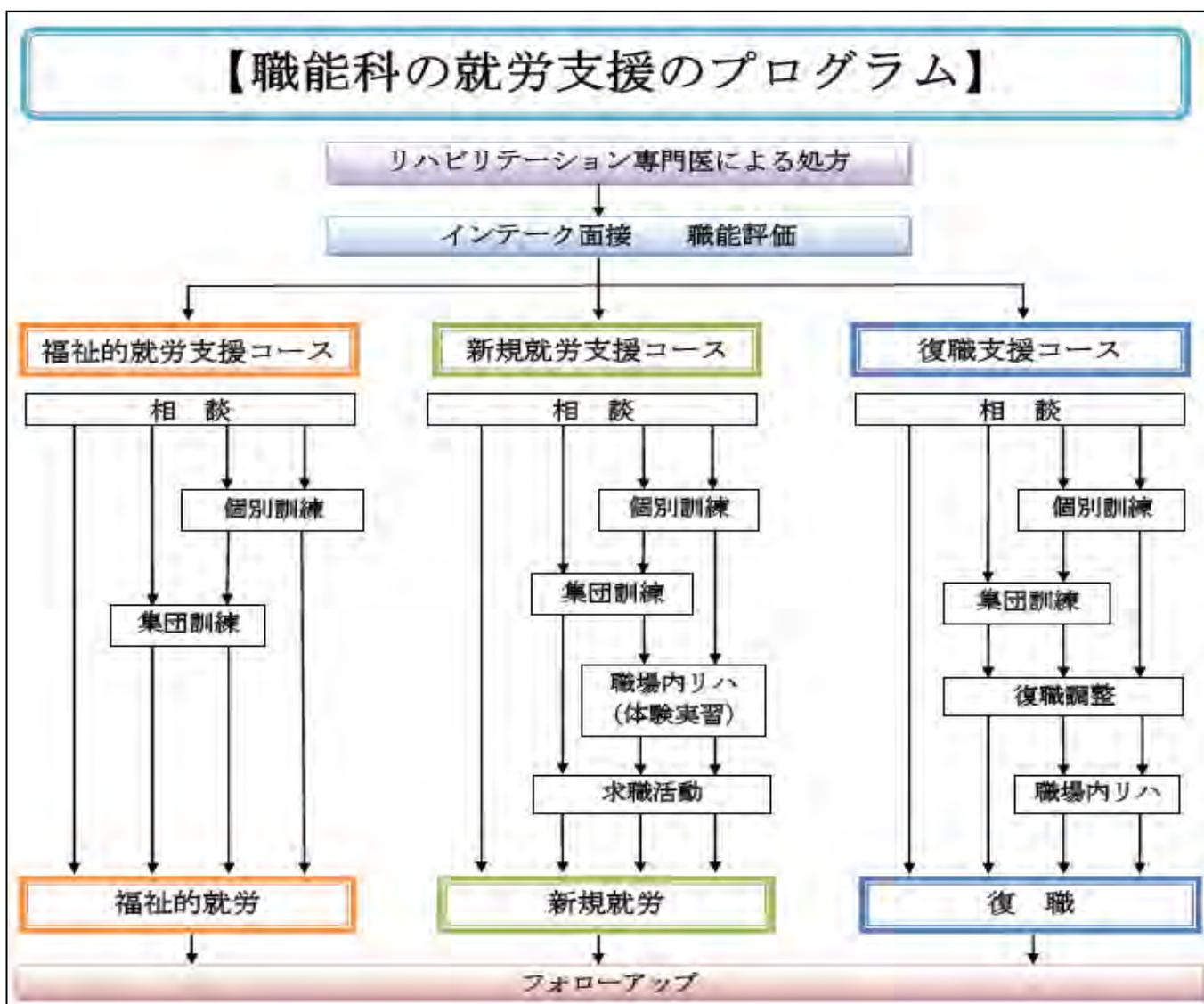


図1 職能科の就労支援のコース

(松元 健)

就労支援 《復職後のフォローアップについて》

～高次脳機能障がいを持つ方の就労支援について模擬事例を通してご紹介いたします～

Aさん(20代)は数年前に受傷、当院を退院後、地域の資源を利用した後「障害者職業能力開発校」を経て就職しました。直属上司の配慮もあり数年間は大きな問題がなく勤務してきました。しかし、直属上司の異動、景気悪化の影響から業務内容の変更が重なってしまい、情報量が増えたことから「仕事上のミス」が引き金となって「人間関係の悪化」を招き、出社できなくなってしまいました。休職となって当院を受診、当科の処方が出されました。「課題点の整理と対策」を目的に面談と、生活リズムを崩さないように訓練を行い、職場との調整を並行しました。職場の上司をはじめとした同僚の皆様に「高次脳機能障害」についてのレクチャーも実施して理解を得ました。近々復職予定です。

このように、何らかの変化(特に理解ある上司や同僚の異動や仕事内容の変更、拡大は要因になりやすい)によって、調子を取り崩される方は少なくありません。是非、抱え込まずにご相談ください。(千葉 純子)



就労支援の実績

職場内リハビリテーション実施人数	
2012年4月～6月の累計	4名

就職・復職者の人数		
2012年4月～6月の累計	新規就労	8名
	復職	9名

物品請求書作成

障害者職業総合センターで開発された「物品請求書作成(写真1)」を活用した訓練を紹介いたします。この課題内容は、「事務担当が、会社内で要求された事務用品等の品物を購入するために、それぞれ異なる6品目をカタログから品番、単価を調べ出し、各々の品物の請求金額とそれらの小計、さらに消費税を加算して総計を出し、物品請求書としてまとめる」という、実践的なものです。難易度もレベル1～5と5段階があり、物品の色の選択、似通った種類からの選別条件などが、徐々に複雑になります。品番の検索ミスによる誤記、誤計算の有無、処理時間の度合いなど、注意力や情報処理速度など高次脳機能障がい仕事へどのような影響を与えているのかチェックできます。評価としても活用できますが、訓練としてはレベルの低い課題から連続して2つの課題が正解すると上位レベルの課題に進むことができます。利用者は一喜一憂しつつ、結果をフィードバックすることで自己認識を深め、改善を図っていく上で、有効な訓練です。(椎野 順一)

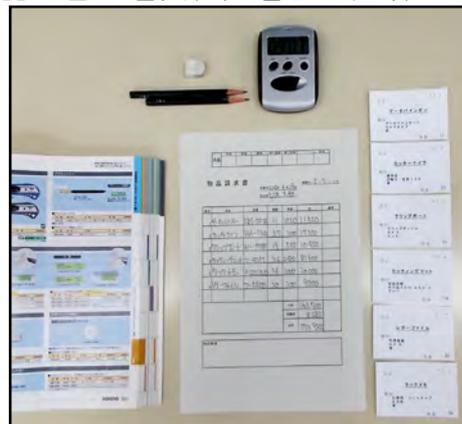


写真1 物品請求書作成